水辺の時間　内山りゅう写真展

会　　期　　2010年4月24日（土）～6月13日（日）〈42日間〉
会　　場　　企画展示室
展示作品　　51点
観 覧 料　　200円(団体100円)、高校生以下無料
入場者数　　2,415人

内　　容

木曽川や飛騨川、長良川水系の河川、清水の利用、生活用水など、みのかもは今日でも水辺の風景を多く残しています。この展覧会では、田んぼや川に棲む生き物、その生き物を取り巻く水環境の撮影を続けている写真家・内山りゅう氏（1962年東京生まれ。写真家）の作品をご紹介いたしました。ファインダーを通して写し出された清らかな水や川が育んできた命、時間との出会いをきっかけに、豊かな水のもたらす多くの恵みやみのかもの自然に思いを廻らせる機会となりました。

プリント協力　ノーリツ鋼機株式会社（本社　和歌山県和歌山市）

関連行事

■「内山りゅう　ギャラリートーク」
5月8日（土）14:00～15:00　企画展示室　参加には入場券が必要　参加者:60名
講師：内山りゅう氏（写真家）

■フィールドレクチャー「春の川浦川へ行こう！」（のんびり自然観察1）
5月9日（日）　10:00～15:00　美濃加茂市内川浦川　参加料100円　参加者:21名
講　師：渡辺勝敏氏（京都大学大学院理学研究科　准教授）
協　力：美濃加茂自然史研究会

■ミュージアムフォーラム「淡水魚のすむ川～大切にしたい命の川～」
6月6日（日）　14:00～15:30　緑のホール　参加無料　参加者:50名
講　師：森誠一氏（岐阜経済大学地域連携推進センター　教授）

■「三和の川と自然　ぼんやりウオッチング」（のんびり自然観察2）
5月16日（日）　10:00～15:00　美濃加茂市三和町内　参加料：100円　参加者:7名
講師：美濃加茂自然史研究会、三和のゲンジボタルを守る会

■美濃加茂市文化会館企画「まちかどライブ」
5月30日（日）　14:00～15:00　三和コミュニティセンター　参加無料　参加者:40名
演奏者：奥村陽子氏（アルパ演奏者）

■ふらっとみゅーじあむ「切り絵でつくる水辺の生き物」
会期中の開館日　毎日9:00～17:00　エントランスホール　参加料1回50円　参加者:のべ39名

展示作品リスト

水辺の時間　内山りゅう写真展

2010. 4/24㊏-6/13㊐

1	モリアオガエルの産卵	和歌山・高野山の池で産卵するモリアオガエル。 1匹のメスに多数のオスが群がる。 6月、雨がしとしと降る夜中に撮影した。	(35㎜判)
2		激しく流れ下る川。 水中から流れを見ると、巻き込んだ泡が渦を巻いているのが分かる。 水は美しいが、時に恐ろしい一面を見せる。	(6×6判) マイティスプリント
3		極めて高い透明度をもつ水域では、水に入り流れを水平に見ると、水面近くに「水色」のラインが現れる。静岡県柿田川にて撮影。	(6×6判) マイティスプリント
24		川岸の山桜を水中から見上げた。 水中からのお花見を、私は“水桜見（みずはなみ）”と呼んでいる。	(6×6判) マイティスプリント
25		流れる水面を川の底から見る。 陸上の新緑が水に映り込み、不思議な景色が広がっていた。	(6×6判) マイティスプリント
26	メダカ	稲の間を泳ぐメダカ。 英語ではライスフィッシュといい、田んぼの魚を意味する。 全国的に減少が著しい。	(35㎜判) マイティスプリント
27		富士山の伏流水が湧き出す忍野八海。 そのうちの一つ、お釜池は直径約2m、深さ約5mの円柱形の池である。 許可を得て池の底まで潜り、底から上を見上げて撮影した。	(35㎜判) マイティスプリント
28	アユ	春、海から遡上したばかりの若アユたち。 川の下流域で、これほど透明度が高い川はとても少ない。 三重県銚子川にて撮影。	(35㎜判) マイティスプリント
29		両岸が切り立った3mほどの淵に潜る。 水底から水面を見上げると、空と森が写り込んでいた。	(6×6判) マイティスプリント
30		健全な川は、河畔林が発達している。 清らかな流れ越しに河畔林の新緑をとらえた。	(6×6判) マイティスプリント
31	カワヨシノボリ	一生を川で生活するハゼの仲間。 他種のヨシノボリよりもはるかに大きな卵を少数産む。 写真は、孵化直前の卵を保護するオス。	(35㎜判) マイティスプリント
32		川の瀬で、白い波立ちを水中からとらえる。 早い流れの中で、泡が光って見えた。	(35㎜判) マイティスプリント
33		春、山桜を撮影していたら偶然、落ち葉が流れてきた。 シンメトリックに水面に写ったところでシャッターを押した。	(6×6判) マイティスプリント
34		川の浅い場所に群れるカワムツの幼魚を、川底から見上げて水面を撮影してみた。 泳ぐ魚が反転し、空を泳いでいるように見えた。	(6×6判) マイティスプリント
35		夏、強い陽光が揺れる水面に反射し、岩に光の模様を写し出す。 水面を少し揺らしただけでも光の模様は壊れでしまう。	(6×6判) マイティスプリント
36	カジカガエル	清流を代表するカエルで、「フィー・フィー」という鳴き声が特徴的。古くは万葉集にも登場し、平安時代からカジカガエルの声を聞くことは風流とされてきた。	(35㎜判) マイティスプリント
37		落ち葉が川に落ち、流れていく。葉の輪郭が出るように、逆光になる淵を選んだ。 自分の吐いた空気で水面が揺れないように、息を止めて撮影した。	(6×6判) マイティスプリント
38		秋、水の景色を求めて川浦川流域に車を走らせた。 一本の見事なイロハモミジに目が止まり、水面からのアングルでとらえてみた。	(6×6判) マイティスプリント
39	ネコギギ	夜行性であるため、日没後、川に潜って撮影した。 ライトの明かりを嫌って逃げるため、撮影は容易ではない。	(35㎜判) マイティスプリント

水辺の時間

20 ミシシッピーアカミミガメ	16 カワアナゴ	12 アカハライモリの卵	8 カジカ（小卵型）	4 ドジョウ
21 オオサンショウウオ	17 ヌマガエル	13 ヌマチチブ	9 ニホンヒキガエル	5 ドンコ
22 ツチガエル	18 ヒバカリ	14 ニホンアマガエル	10 アオダイショウ（ふ化）	6 アユカケ
23 シュレーゲルアオガエル	19 ブチサンショウウオ	15 ニホンスッポン	11 トビハゼ	7 ボウズハゼ

40	ニホンアマガエル	田んぼ脇に生えたクワイの葉に上るニホンアマガエルの幼体。日の出を待ち、逆光で撮影した。	(35㎜判) マイティスプリント
41	渓流の岩の上で羽を休めるミヤマカワトンボ。水の中から近づいて行くと、レンズのすぐ前まで寄ることができた。		(6×6判) マイティスプリント
42	滝壺の中には、生き物の姿はなかった。さらさらと流れ落ちる水の音だけが、あたりにこだましていた。		(6×6判) マイティスプリント
43	川の流れを横から見る。清らかな水は、見ているだけで気持ちがいいものだ。		(6×6判) マイティスプリント
44	水面に泳ぐ魚を、真下から空をバックに写してみた。まるで魚が空を飛んでいるような不思議な光景が広がった。		(35㎜判)
45	メダカの産卵	十数秒の抱接の後、メスが卵を産み出した瞬間。メスは卵をしばらくは腹につけているが、やがて水草や植物の根などにくっつけにいく。	(35㎜判)
46	苔むした岩の間を水が勢いよく流れ下る。水の力は重く、強い。時に、カメラが流されそうになりながらの撮影になる。		(35㎜判)
47	雨が山々を潤し、水が1滴1滴流れ落ちる。すべては、この1滴からはじまる。集まった水はやがて川となり、海へと流れてゆく。		(35㎜判)
48	橋の工事で、放棄された鉄杭が水中に立ち並んでいた。		(35㎜判)
49	ウナギの遡上	上流を目指し、落差のある岩盤を這い上がっていくウナギ。水が流れていなくても湿ってさえいれば登ることができる。	(35㎜判)
50	落差のある場所の下流側には、時に大きな泡の渦ができる。泡は“ゴー”という音とともにぐるぐると回り、それ自身が大きな生き物のように見えた。		(6×6判) マイティスプリント
51	サワガニ	一生を淡水環境で過ごす本州唯一のカニ。雨の後などには、地面を歩いている姿を見掛けることもある。	(35㎜判) マイティスプリント